

10 自然の活用



◆さかんなウィンタースポーツとトレッキング

志賀高原は雪質がよく、変化に富んだゲレンデはスキーヤーやスノーボーダーに人気があります。スノーシューハイキングも魅力的です。また、森や池や山をめぐり、志賀高原の自然を楽しむことができる多くのトレッキングコースがあります。環境学習としても活用されています。



スキーとスノーシューハイキング



環境学習

◆スノーモンキー

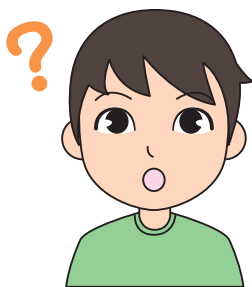
1964年（昭和39年）、野生ニホンザルの保護と観光資源としての活用を目指して、地獄谷^{やえんこうえん}野猿公苑が開苑しました。

開苑以来、入苑者が直接サルにエサを与えることはせず、係員だけが餌を与えてきました。「サルに食べ物を見せない、サルに触ったり驚かしたりしない、サルの目をじっと見つめない」などを入苑者にお願いすることにより、野生サルと人間の共存が保たれています。



温泉に入るサル

その結果、安心して間近でサルを見たり、写真撮影ができたりするようになっています。



サルが温泉に入るようになったのはどうしてかなあ？

近くの旅館の露天風呂に手を入れていた子ザルが体を沈めるようになり、「温泉に入る野生のサル」として取り上げられました。1970年（昭和45年）には露天風呂^{ろてん}に入る「スノーモンキー」が海外雑誌「LIFE」の表紙に掲載されました。1998年（平成10年）の長野冬季オリンピックで広く紹介され世界中に広まりました。



外国からの訪問客

◆サバタケ®

初夏、ネマガリダケ(チシマザサ)のタケノコが採れます。当地にはネマガリダケとサバ水煮缶詰でつくる郷土料理「タケノコ汁」があります。初夏しか味わえない「タケノコ汁」を通年味わえるよう缶詰『サバタケ®』が開発され、今ではレトルトパックができています。



タケノコ汁



サバタケ® (レトルト)

◆須賀川そば・はやそば

そばのつなぎは小麦粉が一般的ですが、長野県北部ではオヤマボクチの葉の繊維をつなぎに使用します。中でも「須賀川そば」は有名です。オヤマボクチはヤマゴボウの一種です。雪が深く小麦の栽培ができないためオヤマボクチを使う知恵が生まれました。

また、「はやそば」はゆでた千切り大根に、そば粉を入れて手早くかき混ぜ、出しつゆを入れて熱いうちにさっと食べます。もともとは、農作業の合間に食べられていた「はやそば」ですが、今では長野県の無形民俗文化財に指定されている郷土食です。



須賀川そば



はやそば

そば打ち体験を
クラスみんなで
やったよ！



◆まへざかだいこん 前坂大根

「信州の伝統野菜」に認定されている前坂大根は、大根おろし、つけ物、煮物として人気があります。



前坂大根

◆自然エネルギー

温泉熱利用

温泉の豊富な湯量を活かし、かえで保育園では暖房や室内プールに温泉熱を利用しています。また、温泉の排湯熱エネルギーは冬期の道路融雪に活用されています。

こうした温泉熱利用の取り組みは自然エネルギーを活用するもので、人間の活動が自然環境に悪影響を与えず、その活動を維持できるSDGsの目標達成に大きく貢献するものです。



暖房や道路の融雪に温泉の熱を利用しているよ。SDGsだね。



温水プール(かえで保育園)



温泉熱利用による道路融雪(鈴虫坂)

雪冷熱利用

山ノ内町ではりんご栽培が盛んです。昼夜の寒暖差が大きいので、色つきもよくおいしいりんごができます。このりんごを雪室の中に貯蔵する「雪中りんご」はさらにおいしくなります。地域の農家でつくる団体「ほなみ村」が「雪中りんご®」として商標登録しています。

また、須賀川地区には「スノーパル」が稼働しています。貯雪スペースに約150tの雪を運び込み、冷熱を利用して果樹やそばなどを保管します。



雪中りんごの商標



スノーパル

スノーパルは天然雪の冷蔵庫。自然エネルギーの節約と二酸化炭素の排出を抑えるんだ。

